

海賊対処行動派遣部隊がソマリア沖・アデン湾に向け出航 ～ 派遣海賊対処行動水上部隊（第52次隊） 出国行事の様相 ～

ソマリア沖・アデン湾に赴く第52次派遣海賊対処行動水上部隊の出国行事が10月4日（土）に開催され、護衛艦「おおなみ」が神奈川県横須賀市から出港した。

飯尾啓正艦長が指揮を執る「おおなみ」には、第52次ソマリア周辺海域派遣捜査隊を編成する丹羽秀彰隊長以下海上保安官8名を含め、約200名が乗り組み、現在活動中の第51次隊の護衛艦「はるさめ」と交代する。なお、同艦は中東地域における情報収集活動も兼務する。

式典では大町克士自衛艦隊司令官が「国際情勢は混迷の度合いを更に深めている。また、ホーシー派による一般船舶に対する攻撃等が続いている、海賊対処行動はわが国の海上安全の確保に直結し、商船関係団体及び国内外からも高い評価を受けている。過酷な環境下ではあるが、任務の遂行、安全確保に努めて無事の帰国、そして元気に再会することを祈念する。」と訓示した。

また、彼末浩明海上保安監は、「国際海上物流の要衝であるソマリア沖、アデン湾におけるわが国の海賊対処行動は平成21年3月に第1次隊が派遣されて以来、長きにわたり、日本のみならずあらゆる国籍の船舶および乗組員の安全を確保してきた。この取り組みは、国内外から高い評価を受けている。また、海上自衛隊と海上保安庁の更なる連携の礎を築くものと期待している。」と挨拶した。

最後に飯尾艦長が、「一致団結、任務を完遂します。護衛艦「おおなみ」出港します。」と報告し、乗組員一同が乗艦した。

当協会からは長澤会長の代理として参列した平尾常務理事が「日本商船の安全を宜しく願います。」と任務に赴く乗員に想いを伝えた。

当協会からは平尾常務理事、川崎汽船 三好安全運航チーム長、商船三井 米田海上安全部長、三菱鉱石輸送 足立取締役、池田安全・環境・品質保証グループ長が、国際船員労務協会から綾会長・今田理事らが、全日本海員組合から池谷国際局長らが参加した。

参加者一同は予想された降雨にみまわれることもなく、秋の穏やかな空気に包まれた横須賀の岸壁から日本を離れ、海賊対処行動に赴く「おおなみ」の安全航海と乗員の無事を祈りつつ、見送った。

出国行事



訓示する大町自衛艦隊司令官



挨拶する彼末海上保安監



出国報告する飯尾艦長



整列する乗組員一同



出港する「おおなみ」



護衛艦「おおなみ」出港を見送った参加者